

恵庭市総合計画審議会

第 1 回総合調整部会議事録（要旨）

日時	令和 7 年 6 月 16 日（月） 16：00～17：00
場所	恵庭市役所 203 会議室
出席者	小磯 修二 委員（北海道文教大学地域創造研究センター）
	土谷 秀樹 委員（恵庭商工会議所）
	武井 和磨 委員（恵庭青年会議所）
	成田 良恵 委員（市民ワークショップ委員）
	船田 清 委員（恵庭市社会福祉協議会）
	大塚 ひろみ 委員（恵庭市文化協会）
	小林 祐 一 委員（公募）
	熊野 稔 委員（公募）
議事	・ 審議事項
	（ 1 ） 第 6 期恵庭市総合計画将来都市像について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
審議	●部会長 これまでの経過の確認ですが、前回の総合計画審議会を 3 月 7 日に開催し、その後、専門部会でそれぞれ検討し、その結果について今日議案として、最終的に総合調整部会で検討するという流れでよろしいでしょうか。それでは、これまでの専門部会での議論を踏まえ、今回どのような形で基本構想の素案の中身について提案されたのか報告いただき、改めて総合調整部会の方で検討を進めていくという流れで、今日は進めていきたいと思います。 ●事務局 3 月 7 日の第 2 回総合計画審議会の後、3 回にわたる専門部会において、それぞれ基本目標について慎重かつ活発なご議論をいただきました。そして本日第 1 回総合調整部会を開催させていただいているところです。 今後の予定としましては、7 月 9 日に第 3 回総合計画審議会を、7 月下旬から 8 月上旬に第 4 回総合計画審議会を開催したいと考えております。9 月

審議	の1か月をパブリックコメント期間とし、市民から出された意見等について10月中下旬第5回総合計画審議会でご審議いただき、10月末から11月上旬頃答申をいただき、第4回市議会定例会において、議案として提出する予定としております。第2回総合計画審議会でのご意見をふまえ、スケジュールを再構築しましたので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。 次に令和7年6月13日現在未定稿とさせていただいております、専門部会での意見や市議会特別委員会、庁内からの意見をもとに、修正いたしました基本目標を見え消しで配布させていただいております。軽微な変更等の説明は割愛させていただきますが、大きな変更としましては、基本目標が7つとして、第2回総合計画審議会では提示させていただいておりましたが、専門部会での意見をもとに、5つの基本目標と、「将来都市像の実現に向けた行政運営」に変更いたしました。これにより、第6期恵庭市総合計画施策体系（案）、横版の資料でございますが、変更しております。 続いて、第6期恵庭市総合計画の構成（案）でございますが、基本目標の実施にあたり、土台部分の役割として、将来都市像の実現に向けた行政運営があり、基本目標とそれぞれ施策があります。ここについては、3回にわたる専門部会や市議会特別委員会でご議論いただいたところであります。 本日、皆様にご議論いただきたいのは、それぞれの基本目標をもとに、将来都市像及び重点となる目指すまちの姿についてです。 最後に、第6期恵庭市総合計画の将来都市像（案）についてをご覧ください。キャッチフレーズの案を4つと、その下にキャッチフレーズに込めた思いを載せています。なお、このキャッチフレーズについては、事務局にて原案を7つ示したものを、本市若手職員がグループワークで4つの原案に絞ってもらったものになります。本日はこのキャッチフレーズを一つの案に絞っていただけると幸いに存じますが、難しいようであれば、皆様からそれぞれご意見をいただき、事務局にて再考したいと思っております。また、キャッチフレーズにも副題をつけ、目指すまちの姿に導くような言葉をいれることも想定しています。 また、まちづくりの基本理念については、本日はお示しできておりませんが、まちづくり基本条例から抜粋し、作成して参りたいと考えております。 ●部会長 当初の7つの項目の再編について、専門部会で様々な意見があったと推察します。それらも含めてご意見いただければと思います。 ●A委員 委員の皆様から色々意見が出て、そこから私も派生して細かいところにもたどり着けたかなと思います。担当した基本目標について、得られていると
----	--

審議	いいですか、振り分けられたり、行政運営のところに書かれたりというところで、私たちの部会の結果はこの資料にまとまっているとおりです。
	●B委員 A委員がおっしゃったとおりです。
	●C委員 3回にわたり本当に活発なご意見をいただきまして、基本目標4の「共につながり 支えあい 誰もが生き生きと暮らし続けられるまち」が2に変更になりました。 基本目標4と7が担当でしたが、7が事務局案では5に変更になっており、ここについてはタイトルの「子どもや若者が希望をもって」について、まちづくり基本条例に「ふるさとに誇りを持つ子どもたちを健やかに育てたい」が入っていますので、リンクさせて「ふるさとに誇りをもって」を入れてはどうかということを提案し、変更されています。 「保育環境」という言葉については議論がありましたが、それが整理され、「幼児教育、保育」に統一されました。基本目標7については内容等も含め、若干の変更がありました。
	●D委員 C委員がおっしゃったとおりです。
	●E委員 基本目標5と6の議論を行い、それが3と4にスライドされています。議論の内容としては、宿泊のこと、住み替えのことなどがありました。先日、新聞報道にあった、恵み野駅周辺にホテルが建設される話が議論の中で出せていれば、もう少し踏み込めたかもしれません。 ほかには、防災道の駅について、F委員からご意見がありました。
	●F委員 E委員がおっしゃったとおりです。宿泊機能が弱く、今後、産業集積するときに、ちょっとしたコンベンションができるようなシティホテルを今後誘致できないのかというような議論もありました。 公共交通について、エコバスだけでなくデマンドタクシー系の補完について考えていくことや、コンパクトシティということで立地適正化計画を策定されていますが、それを考えたときに駅前通りなどの賑わいをもっと醸し出さないといけないというような話をしていました。
	●部会長 今後10年の総合計画ですから、どういう形で将来の目標、考え方を示していくのか。いまのお話が部会の意見であると事務局で受け止めていただければと思います。

審議	先ほど事務局から、この総合調整部会で将来都市像を組み立てていくような、そういう進め方も含めて説明がありました。今日は各部会からこの調整部会に参加されているということで、皆さんにご意見をいただければと思っています。 まず将来都市像については、若手の職員が検討されたとのことですが、どのような経過、背景でしょうか。
	●企画振興部長 理事者との調整の中において、将来の恵庭市を担う若手職員の意見も取り入れてはどうかということで、機会を設けさせていただきました。
	●部会長 わかりました。今回の総合計画のスタートは、私もお手伝いしましたが、最初は昨年9月のシンポジウムでした。計画の進め方の基本は、市民の声をしっかり聞くということで、手厚い形でワークショップを開催され、市民意見を聞かれて、市民の総意をもとにこれからの総合計画づくりを行っていくというものでした。そういう意味では総合計画審議会という場で将来都市像を検討していく場合も、そこで進められてきた議論を踏まえて将来都市像を議論し、整理していく形が自然だと思い、質問させていただきました。基本的にはその考え方は市民の意見を踏まえて、これまでの総合計画に関わる色々な取り組みの中で抽出された考え方をベースに考えていくというところは、まさにそのとおりということですね。 一つの考え方のたたき台として、職員からの提案として、これにこだわることなく、皆さんのそれぞれのご意見を踏まえて、最終的には審議会の中で議論いただいて将来都市像は検討していくという流れでよろしいでしょうか。
	●企画振興部長 原案を出させていただきましたが、審議会の中で修正いただいたり、また、別なものに変えていただいても差し支えありません。
	●部会長 それぞれ皆さんから将来都市像について意見をお聞かせいただいて、幅広い考え方の中で整理していく方向で進めていきたいと思います。それでは、ざっくばらんにご意見をお聞きしたいと思います。
	●D委員 一番最初に感じたのが、全てに「花」が入って「花のまち恵庭」を売り出しにしているのが分かります。でも実際に花があるは恵み野のあたりだけで、花を手入れしようと思ったらとてもお金と手間がかかるので、余裕のある方しかできないのではないかと思います。花もいいですが、例えば福祉、

審議	文化、スポーツを入れてもいいと思います。また、ブックスタートを初めて実施したということで、「本」の關係の文言を入れてもいいのではと思いました。
	●C委員 「ガーデンシティえにわ」が2つありますが、定義のようなものはあるのでしょうか。
	●事務局 シティセールスや総合戦略において「ガーデンシティえにわ」を打ち出しています。
	●部会長 私は恵庭の地方創生の懇談会に初期から携わってきました。恵庭がどのようなまちづくりを目指していくのかというときに、田園都市（ガーデンシティ）という提案をしました、これはヨーロッパでは一つの都市づくりのモデルのように言われている言葉ですが、実は恵庭が先取りして進めているのではないかと。であれば思い切って、日本のガーデンシティは恵庭というところを展開していければという前向きな目標を総合戦略に書いたという経緯があります。定義を明確にしたものではなくて、一つのイメージのようなものだと思います。
	●企画振興部長 第3期総合戦略に掲げておりますが、新ガーデンデザインプロジェクトとして、戦略的な事業を進めていくということで位置づけしています。
	●C委員 「恵庭」とするか「ガーデンシティえにわ」とするか、判断材料の一つだと思います。総合戦略との整合性というところでは、一つはそういう言葉も入れておく必要があると思います。この4つをうまく組み合わせていくのも一つの考え方だと思いますが、「ちょうどいいまち」という表現は少し引っ掛かります。恵庭は田舎といえば田舎ですが。
	●副部会長 「笑顔」は3つ入っています。目標として、市民の方が笑顔あふれるまちというのは、一つあると思いました。「恵庭」がいいのか「ガーデンシティえにわ」がいいのかは、その前の文言に影響されると思います。1番の「緑・水・花咲く 笑顔つながるまち えにわ」は、今までと似ているので、もう少し違う方がいいと思います。
	●E委員 恵庭に住んで36年になりますが、当時は生活するのに便利という理由で恵庭に引っ越してきました。病院があり、店があり、庭がある一戸建てがあ

審議	ります。医療設備がこれからも充実するまちになるのかという点が不安です。恵庭市は花のまちと言われますが、一概に花だけではないのではないかと思います。恵庭の全体像が今後どのようなになるのか楽しみです。
	●A委員 以前、若い方の意見を入れてはどうでしょうかという意見を出させていただきました。せっかくこのような案を出していただいたので、そこから派生していけるのがいいと思います。これから先のことを考えていくと、若い人たちが共感できるようなワードがあると参画してもらうにはいいと思います。「ガーデンシティ」、「花」というところでは、2番の案で、「咲く」、「彩る」という表現ができるのでいいと思います。4つの中では2番がいいと思います、他に「笑顔」があるので、笑顔も「咲く」などといったところに繋がればいいと思います。
	●B委員 「花」に関することで、覚えている限り、私が恵庭に越してきてからずっと、「花のまち」がキャッチフレーズだったと思います。D委員のお話のとおり、花に時間とお金をそんなにかけているだろうかといった疑問ありますが、みんなの中に「花のまちえにわ」が植わっていると思います。よさこいを見ていましたが、恵庭のチームが「花のまち恵庭から来ました」と言っていました。市民の中にはこのキャッチフレーズがとてもよく残っていると思うので、「花」に関するキャッチコピーは入れた方がいいと思います。
	●F委員 皆さんおっしゃられるとおり、今まで培ってきた花のまちづくりのストーリーは大事だと思います。それが一つの恵庭市の誇りになってきていると思います。第6期に当たっては、千歳のラピダスや北広島のエスコンフィールドは機会なので、それをまちづくりにどう活かしていくかという考えが伝わるようなものがあればいいと思います。今までの培ってきた花、ブックスタート、文化もとても大事ですが、プラスアルファのような、光るストーリーがあるといいと思います。恵庭は公民連携の先進地のようなところがあると思います。例えば公園にカフェをつくるパーク PFI 事業を札幌より早く2件実施していますし、借り上げ型市営住宅や「恵庭の MORI」、今後動いていく柏陽複合施設など、非常に公民連携の取組をしていると思います。専門部会でお話しましたが、大学関係やコンサル関係の観光視察のニーズがあると思います。将来都市像については、できるだけシンプルな方がわかりやすいと思います。
	●部会長 私は総合計画に関して、助言機関として地域創造研究センターでの活動を

審議	行っており、その立場から審議会委員の一員としてお話をいただければと思います。将来像の議論はやり方として難しく、それよりも我々が何を指すのか、共有するところがここだと。それを表せるような、こういう形でメッセージを送っていきたいというかたちの提案をすることが、計画議論としては大事な部分ではないかと感じます。限られた時間ですが、改めて恵庭がどういうところをこれから 10 年間目指していくのか、それは次の新しい世代がこの恵庭の地で安心して暮らしていくために、今の状況をどう踏まえ、どういうところを重点的にという、そういう考え方をこの機会にしっかり議論することが大切だと思います。 委員からは花の議論がずいぶん出ていまして、「花のまち」というのをこれからの 10 年間の政策目標としてどのように位置付けていけばいいのか、非常に難しいですが、「花のまち恵庭」は、ブランド力としてかなり定着していると思います。それに関わる政策は、様々な取り組みの中でしっかりとした都市政策を展開されている。ガーデンシティを恵庭が目指していくと言えば、みんながある程度共鳴してくれるというのは素晴らしい財産なので、それをしっかり活かしながらも、ただそれに安住するのではなく、これからの厳しい時代に向き合って、どういう方向を恵庭が新たに目指していくのかというところが、第 6 期総合計画の議論に求められていると思います。 恵庭を取り巻く状況で難しいのが、さきほど F 委員からもお話がありましたが、北海道が経験したことのないような大きな外発的な動きがある。千歳のラピダス、北広島のエスコンフィールドといった動きがある。その中で、間にある恵庭がどのような都市づくりを進めていくのか、そこが難しいところだと思います。 一方で、人口減少ということで大変厳しい状況です。恵庭は人口が増えていますが、増えているのは外国人で、日本人は減少してきています。 都市計画マスタープランでは、外発的な動きをどう受け止めていくのか先行した議論があり、計画の中にキーコンセプトが掲げられています。一つは広域という視点、もう一つは交流という視点です。これは今までの恵庭の計画の中ではあまりありませんでした。 もう一つは、人口減少の厳しさは想像以上のもので、特に最近の減少の動きが急速です。そういう厳しい時代の中でどう恵庭が生き抜いていくのか。そういう中では、足元にある色々な資源を見直し、再評価し、再認識して、それを活かしていく内発的な視点も大事です。逆に言うと千歳や北広島などが外発的な動きに向き合って動いている中で、恵庭の良さは、内発的な、地域にある資源を見つめ直し、価値をつけていく動きだと思います。私が地域創造研究センターで文化創造都市プロジェクトを展開しているのも、足元の
----	---

審議	資源を文化資源として見つめ直していくという、世界的な都市政策の潮流が背景にあります。簡単にできるものではありませんが、そういう認識を持って取り組んでいきたい。そこで地域創造研究センターでは恵庭が先行的にやっている花の文化、読書文化といった、誇れるそういう取り組みがあると、そういうものを改めて次の時代に繋げていくような取り組みができないだろうかと思っています。そんなメッセージも第6期総合計画のメッセージとして出してほしいという思いがあります。 ●副部会長 案の中で「暮らし彩る」という言葉が、エスコンやラピダスを含めて、恵庭市に対して新しい風が吹いてきて、それが経済的な部分もありますが、文化的な部分もある。これから新しいものが恵庭に根付いていくような感じがして、言葉としていいと思います。この中の組み合わせでは「笑顔咲く 暮らし彩る ガーデンシティえにわ」を考えました。 ●事務局 案を7つ作り、それを若手職員に4つに絞ってもらった部分と、新しく考えてもらった部分があります。当初の案7つは「北のガーデンシティ恵庭～市民主体の文化創造都市～」、「シビックプライドをもち自分らしく暮らす ガーデンシティえにわ」、「恵・水・緑・花・風・人・夢・愛・庭 私たちの想いひろがるまち」、「あなたとわたしの笑顔つながるまち えにわ」、「人と自然が共生し 学びと創造が育つまち えにわ」、「自然と文化が響きあう つながりと創造のまち えにわ」、「文化が薫る 未来に向けてつながるまち えにわ」です。これまで昨年度、市民ワークショップや市民アンケートなど、様々な議論をいただいた中で、案として7つ作成し、検討によって4つになっています。 ●部会長 キャッチフレーズありきではなく、恵庭がどのような都市像を目指すのかという中身の議論を積み上げて進めてはどうでしょうか。 ●企画振興部長 去年から市民ワークショップなどで様々な市民の方のご意見をいただきながらこの基本構想をまとめておりますが、その中にキャッチフレーズになるべきものが隠れていると思います。若手職員が検討したものに皆さんからご意見をいただいて、使える部分と使えない部分があると思います。将来のあるべき姿を描く総合計画ですので、なるべく市民の方々の思いを反映できるような、この中にある言葉の中から想像できる言葉をキャッチフレーズ的なものにしてはいかがでしょうか。この中には、例えば先ほど部会長とF委員もおっしゃられた、千歳、恵庭、北広島といった関係性もありますし、今
----	---

審議	後の都市開発の関係も当然含まれてくるものと思います。その中で恵庭のこれまでの歴史の中で育まれたものや、自分たちで作りに上げてきたものもありますが、この中にある程度網羅されていると思いますので、将来発展すべき姿を言葉にしていきたいという考えがありますが、いかがでしょうか。
	●部会長 今日の議論もそうですが、色々な議論を積み重ねながら、そこで集約されたものが、キャッチフレーズであり都市像であり、その言葉が重みを増していくものだと思います。さきほどF委員がおっしゃっていましたが、恵庭は官民連携、「民」の力をうまく使いながら都市づくりをしていくという伝統があり、すごくいい財産だと思います。これからの時代にこそ大事なところなので、恵庭らしさを将来都市像やキャッチフレーズでうまく使っていくと思います。また、花の文化を支えてきた市民力も、これからのまちづくりの中で、我々はそれを認識して、その力でしっかりとまちづくりを進めていくんだ、というようなメッセージも恵庭らしいと思います。
	●C委員 今後、総合計画審議会が予定されており、出席する委員数が増えますが、案の数が多いと意見の出しようがないということになるかもしれません。ある程度の絞り込みが必要だと思います。
	●企画振興部長 本日出していただいた意見をもとに事務局で案をまとめさせていただきます。
	●部会長 総合計画審議会までにできれば理事者の確認も含めて、ある程度絞り込んだ提案をいただければと思います。
	●C委員 絞り込んだ説明ができれば問題ないと思います。議会でも同じことを聞かれると思うので、そのようなやり方の方が考えが出せると思います。
	●部会長 なかなか難しいと思いますが、その過程の考え方も共有いただければと思います。
	●事務局 部会長からお話いただいた、恵庭の外発的な動きと、一方で10年後の人口減少と高齢化はやはり避けられないと思いますので、そういった前提なども含め、考えていきたいと思います。
	●部会長 今回の総合計画の議論の難しさは、都市計画マスタープランの策定が先行

審議	的にあったこと、地方創生の総合戦略との分担、バランスです。例えば、第1回総合計画審議会では人口議論も出ていました。人口フレームについては、総合戦略で人口ビジョンを示すという立て付けになっていますので、あえて総合計画で人口議論をしないで、総合戦略と分担しながら進めていくということも大事なところだと思います。
閉会	●企画振興部次長 閉会のあいさつ